

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,0310	2,0430	2,0490	2,0450	2,0290	-0,0160
	USD/YEN	Spot	78,76	78,53	78,68	78,62	78,34	-0,2800
	EUR/USD	Spot	1,2502	1,2563	1,2528	1,2512	1,2578	+0,0066
	BRL/YEN	Spot	38,78	38,44	38,40	38,44	38,61	+0,1700
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,46	1,46	1,54	1,37	1,39	+0,0159
		1Year(p.a.)	1,79	1,72	1,78	1,77	1,69	-0,0834
	Real Interest	6MTH(p.a.)	7,25	7,33	7,18	7,25	7,25	u,c,
		1Year(p.a.)	7,49	7,46	7,40	7,47	7,47	-0,0031
Stock	Bovespa		58.111	58.406	57.369	57.256	57.061	-194,98
Bond	CDS Brazil 5y		128,38	129,17	129,17	133,00	131,02	-1,9810
	Global 40		129,500	128,500	128,450	128,375	128,250	-0,1250

* これらはインバング市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	コメント
2QGDP(IBGE)(前期比)	0.5%	0.4%	0.1%	マンテガ伯財務相
2QGDP(IBGE)(前年比)	0.7%	0.5%	0.8%	レアル安による効果はまだ完全には見られない
2QGDP(IBGE)(四半期累積比)	--	1.2%	1.9%	

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.0250 で寄り付いた。
- 週初は米ワイオミング州ジャクソンホールでの米 FRB 議長の講演を週末に控えて、市場では様子見ムードの投資家が多く、流動性は限定的となる中、レアルは週間高値となる U\$1=R\$2.0240 を付けた。
- 週央にかけては、大口の資金流出が噂され、レアルは売りが優勢となった。更に、市場では伯金融政策委員会(COPOM)を控えて、50bp の利下げが確実視される中、10 月の COPOM でも 25bp の追加利下げが行われる可能性が高いとの思惑が広がると、先物金利が下落し、レアルも売り圧力が強まった。
- 29 日には伯中銀による 50bp の利下げが発表され、ブラジルの政策金利(SELIC)は市場予想通り、史上最低となる 7.50% となった。その後の同中銀による声明では追加利下げについては最大限の節減を伴って実施されるべきと示された。
- 翌 30 日には SELIC の利下げを受けてレアルは売りが先行し、レアルは週間安値となる U\$1=R\$2.0560 を付けたが、中銀の声明から次回の COPOM での追加利下げ幅が 25bp に留まる可能性が高いとの思惑が広まり、先物金利が上昇レアルも買い戻しが優勢となった。
- 週末には米ワイオミング州ジャクソンホールでの講演で米バーナンキ FRB 議長は「力強い景気回復と労働市場の持続的な改善を後押しするため、必要に応じて追加緩和策を講じる」とコメントし、米追加緩和策への期待が高まるところ、ドルは対主要通貨で下落した。レアルも 2.0300 を上抜けて上昇し、結局 U\$1=R\$2.0290 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	予想	前回
9/3	FGV CPI IPC-S	0.39%	0.34%
9/3	製造業購買担当者指数	--	48.7
9/3	貿易収支(FOB)-月次	\$3000M	\$2879M
9/3	輸出-US\$100万単位	\$22400M	\$21005M
9/3	輸入-US\$100万単位	\$19300M	\$18126M
9/4	FIPE消費者物価指数(月次)	0.32%	0.13%
9/4	鉱工業生産(季調済/前月比)	0.3%	0.2%
9/4	鉱工業生産(季調前/前年比)	-3.3%	-5.5%
9/5	IBGEインフレ率-IPCA(前月比)	0.40%	0.43%
9/5	インフレ率(IPCA)-IBGE(前年比)	5.23%	5.20%
9/5	PMIサービス業	--	48.9
9/5	CNI生産設備稼働率	81.15%	80.8%
9/6	FGVインフレ率-IGP-DI	1.21%	1.52%
9/6	COPOM議事録		
9/6	自動車生産(Anfavea)	--	297789
9/6	自動車販売(Anfavea)	--	364196
9/6	自動車輸出(Anfavea)	--	29736

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.01~2.06

今週は国内外で主要経済イベントが多く見られた。国内ではCOPOMで50bpの利下げが発表され、SELICは市場予想通り、史上最低となる7.50%となった。中銀の声明からは今後も可能な限り追加利下げを実施する意思が読み取れ、来週発表されるCOPOM議事録から追加利下げに対する中銀のスタンスが明らかになるであろう。海外では米バーナンキFRB議長の講演で追加緩和策が発表されなかつ一方で、米景気回復や失業率が懸念されており、今後必要に応じて追加緩和が行われる可能性が残っていることから来週末に発表される米雇用統計が注目される。為替市場の流動性は徐々に回復しており、来週から通常通りの取引量が見込まれるが、今週のマンテガ伯財務相のコメントにも見られた通り、ブラジル政府は弱いレアルを志向しており、中銀による介入警戒感は引き続き強く、来週もレアルは狭いレンジでの値動きとなろう。